

週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月17日(火)

《我らは皆ザーカイ》

比較をしないで生きることができれば、私たちはずっと前に聖人になっていたと思います。しかし、比較なしには生きられないのが人間です。そして、比較をするから劣等感や劣等意識が生じます。この世の中で偉いと言われている人々も、みんな劣等感を持っています。だから、全ての人間は死ぬ時まで劣等意識を持ちながら生きるのです。

劣等感を感じる生き方には、二つの種類があります。一つは、いつも落ち込みます。何をしようとしても自信がありません。いつも逃げ場を探します。そして、もう一つは、劣等感の誘惑を感じながらも強気になろうとします。そして、強気になろうとしているうちに、自分でも本当に強いと錯覚してしまいます。

この二種類の生き方をする人々が、お互いに傷を与えあったり、相手を軽んじあったりすることが、この世の中では繰り返し起こっています。そして、同じようなことが、家庭の中でも起こっています。親の目から見たら、ある子どもはよいと思いき、別の子は足りないと思うことが、必ずあります。なぜならば、子どもが5人いれば5人の中で、自然に比較をしてしまうからです。比較をして、「この子よりあの子は少しよいが、この子は少し足りない。だからどうすればよいだろうか。」と心配するのが親の自然な心ではないかと思えます。

しかし、カトリック信者である私たちは、このようなことから解放されなければなりません。実際に、聖人・聖女の物語で紹介される人物のうち、イエス様に本当に救われたと言われる人々は、100パーセント劣等感で苦しんでいた人々です。

今日の福音(ルカ 19:1-10)で紹介されたザーカイは、金持ちでした。そして、税金をとりたてる徴税人の頭(かしら)でした。しかし、背が低かったのです。だから先回りをしていちじく桑の木に登って、「イエス様はどういう人物か」と思いながら待っていました。聖書には、そのように書かれていますね。

皆様、「あの人は劣等感がないのではないか」という思いは捨ててください。確かめてみましょう。劣等感がない、と思う方は、手を上げてみてください。手を上げる人は、誰もいませんね。人間は、年齢によってさえ劣等感を感じてしまうのです。とんでもないことですが、顔の色の違いでも劣等感を持つのです。それは、仕方がないことです。だから私たちは、誰もが劣等感を持つことを認めなければなりません。私たちはみんな、ザーカイなのです。

大事なことは、自分の痛み、弱点を、どのような態度で受け入れるか、ということです。私たちは、謙遜な心で、自分の弱点を認めながら、頼るところを探さなければなりません。そして、頼る対象は、私たちにとってはイエス様以外には存在しません。二年前にも説教で話したと思うのですが、ザーカイも子どものときから自分の背の低さについて、ものすごく劣等感を持っていたと思います。そして、人々に無視されない唯一の方法、自分を認めてもらう方法として、彼はお金のためにもものすごく頑張ったのだと思います。そして、徴税人の頭^{かしら}にまでなったのでしょ。お金もたくさんもうけたと思います。

今の時代の人々は、ほとんどの人が、このザーカイのような考え方を持っていると思います。しかしザーカイは、イエス様に会いました。そして、今まで自分を守るためにやってきたことが全部崩

れてしまいます。「自分の財産の半分を貧しい人々のために施します。人をだまして取ったものがあれば4倍にして返します。」イエス様に出会ったことで全てを捨てられるという体験ができたのです。

皆様、神様・イエス様と比較してください。自分の愛を、正義感に自信を持っているならば正義感を、イエス様と比べてみてください。私たちは、完全に負けます。負けることを認めることで私たちは変わります。そして、「この世を生きる意味さえ、イエス様によって変わりました。」という告白ができると思います。

皆様、私も、そして私より偉い人々も、みんな弱虫です。その弱さを認める時、強い振りをするのではなくて、本当に強くなれます。これは福音的な強さです。怖さもなくなります。虚しいことを追いかけることも避けられます。

皆様、弱さを認めましょう。そして、ある意味ではその弱さが恵みであること、その弱さによってイエス様に出会えたことを考えられれば、私たちは喜びながらいろいろな時間を迎えられるのではないかと思います。

ありがとうございました。